

令和 5 年 2 月 15 日

株式会社グリーンパワーインベストメント 御中

日本野鳥の会島根県支部
支部長 田原 博
島根県益田市安富町 1820

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
東京都品川区西五反田 3-9-23
丸和ビル

(仮称) 新浜田ウインドファーム発電事業に係る環境影響評価準備書に対する意見書

貴社が作成した(仮称)新浜田ウインドファーム発電事業 環境影響評価準備書(以下、準備書という)に対し、環境影響評価法第 18 条の 1 に基づき、鳥類保全の見地から下記の通り意見を述べる。

記

(1) 鳥類における影響予測について

① 影響予測の全体について

- これまで、まとまった鳥類調査が行われていなかった当該地域で大規模な調査が行われ、結果として準備書 920P に示されるように 129 種もの多様な鳥類の生息が確認されたことは特筆すべきことである。特に希少猛禽類については、準備書 871P 表 10. 1. 4-8 に示されているように 11 種(タカ目 9、ハヤブサ目 2)が対象事業実施区域(以下、計画地という)の周辺で記録され、生態的地位の高いこれらの種が確認されたということは、この地域の生物多様性と自然度の高さが明確に示されたこととなる。このような貴重な場所に大規模な自然改変を行う風力発電施設(以下、風車という)を建設すべきではない。

② クマタカに対する影響予測について

- 準備書 940P に示されるように、絶滅危惧 I B 類のクマタカが計画地の周辺で複数つがい繁殖していることが確認され、限られた調査期間内だけでも 761 例の確認事例がある。日本野鳥の会島根県支部会員もこのエリアで調査を行い、計画地及びその周辺でクマタカの生息、採餌や採餌行動、繁殖行動を確認している。つまり、この地域はクマタカの生息密度が高く、かつクマタカの生息を支える環境が整った自然度の高い重要な地域であると考えられる。
- 準備書 941P に記載されている表 10. 1. 4-18 によれば、クマタカが確認された飛翔高度は風車ブレードの回転域を含む高さにはほぼ集中(91.2%)している。これは風車が建設されると、クマタカの飛翔域に多大な制限を与えることを意味している。
- 準備書の表 5-1 (23) では、風車建設によるクマタカの生息への影響は小さいと評価しているが、尾根に 14 基並べられる風車の建設では工事中はもちろん、稼働中もクマタカの生息環境に大きな影響を与えると考えられる。保全措置としては、工事中に低騒音型の建設機械を用いると書かれているが、工事計画ではクマタカの敏感度の大きくなる繁殖期の工事中断等の配慮事項は全く示されていない。繁殖期のクマタカの敏感度が大きく

なることを考えると不十分であり、これではクマタカの生息に配慮がされていないのと同じである。

- ・ 当会会員の調査により、T10 の近傍南側と北側に営巣中心域をもつクマタカ 2 ペアが観察されている。本計画が計画通り推進されるとこの 2 ペアの繁殖が阻害される可能性は高い。

(2) その他の点について

① 鳥類の渡りの調査について

- ・ 猛禽類の渡りが確認されており、かつ飛翔高度が回転する風車ブレードの高さと同じ高度 M を飛翔したものが、わずかな調査期間中であるにもかかわらず、123 例もあった。その他の鳥類の渡りも春と秋の調査の合計で 1,558 個体確認されている。また、本会会員の観察時にも秋の渡り途中と思われるツバメ類の大群、アトリ類の大群が計画地上空で複数回観察されている。こうしたことから、この地域は鳥類にとって重要な渡りのコースの一部であると考えられる。
- ・ 準備書 951P にある表「高度区別の渡り状況」（秋季）によれば、確認された猛禽類のほとんど（92.0%）が高度 M を飛翔しており、この地域への風車建設のリスクが高いことが予測される。
- ・ 当会会員により計画地周辺において黒ハゲワシやアカアシチョウゲンボウなどの希少な猛禽類の渡りが確認されており、これらの希少猛禽類のバードストライクも懸念される。

② 希少鳥類の調査について

- ・ 貴社の調査結果で絶滅危惧 II 類のミゾゴイが確認されなかったとしているが、2018 年 8 月と 2019 年 7・9 月に当会会員が計画地近傍で確認している。ミゾゴイは溪流の沢を主な餌場としており、本事業の実施により主たる餌場を喪失することになると考える。準備書に記載の環境評価では水域の改変はしないので影響はないと評価しているが、急斜面の谷の上部に巨大な構造物や道路、裸地を作ることになる本計画では、集水区域や食性の変更等からミゾゴイの生息地である沢に土砂流入、水環境の変化が生ずることが予見される。
- ・ 準備書では、環境大臣意見や経済産業大臣意見でも触れられているイヌワシについて「確認できなかった。」ということで、ほぼ検討されていない。しかし、文献に生息の記録があり、最近数年間のうちに計画地の近辺で 3 回確認されているのは事実である。このことから、このエリアはイヌワシの繁殖の可能性が否定できないエリアと言える。国の特別天然記念物であるイヌワシの生息が確認されるエリアで、しかもクマタカの高利用域である本地域に風力発電施設を建設するべきではないと考える。

③ 既設の風力発電施設に係る事前および事後調査の結果を活用した累積的影響評価の実施について

- ・ 計画地の近傍では SB エナジーによりウインドファーム浜田の風車 29 基が稼働中であり、また、本計画地の南側に約 3km ではアジア風力発電の（仮称）益田匹見風力発電事業による 13 基の風車の建設計画が進行中である。ウインドファーム浜田、（仮称）新浜田ウインドファーム、（仮称）益田匹見風力発電事業の 3 つの風力発電施設が完成すれば、南北 10km、東西 5km の範囲内に最大高 180m 超の大型風車が 56 基も林立することになる。この範囲内で生息が確認されている 10 つがいのクマタカをはじめ、多くの動植物の生息・生育が阻害されることが予測され、また、経済産業大臣意見をはじめ、島根県知事、益田市長からも指摘されている複数の風車の稼働による累積的な影響が懸念される。
準備書では騒音、低周波音、風車の影、景観について累積的影響評価を行っているが、大きな影響を受ける動植物、特に行動範囲の広い鳥類についても行うべきである。また、

SB エナジーおよびアジア風力発電と十分連携し、累積的な影響の評価を具体的かつ慎重に実施することを求める。

上記のように、貴社が作成した準備書は、影響の評価と予測が不十分であることから、再調査または追加調査を実施したうえで再度、影響評価、予測を行い、影響を回避できない場合は、事業を中止すべきである。

以上

参考文献

- 上野吉雄・加藤淳司・柳瀬美幸・田原 博・柚野木公盛（2020）島根県南西部におけるクマタカの繁殖状況. 高原の自然史, 20:7-11
- 永安 誠（2022）島根県吉賀町におけるイヌワシの初記録. 高原の自然史, 22:47-48
- 上野吉雄・石井秀雄（2020）広島県北広島町におけるアカアシチョウゲンボウの初記録. 高原の自然史, 20:31-32
- 茶村真一郎（2021）広島県におけるクロハゲワシの初記録. 高原の自然史, 21:43-44